



行發日三月七 (刊休日翌日祭曜日)

愚庵年譜 (二)

島田 忠夫

明治五年 壬申 十九歳
この年、石丸八郎を介し、越中六番町小池詳敬方に身を寄す。小池方に在りては、落合直亮に國學を學び、山岡鐵太郎に禪定の要を尋ぬ。

忠夫 色紙展
七月七日—十一日
平町マルトール

初夏吟

盛 菊 枝

初夏吟
連綿の秩父嶺背し峯の上に白雲一つ浮びたり見ゆ
草枕旅にあれば並木路の月のさへこぼしかり

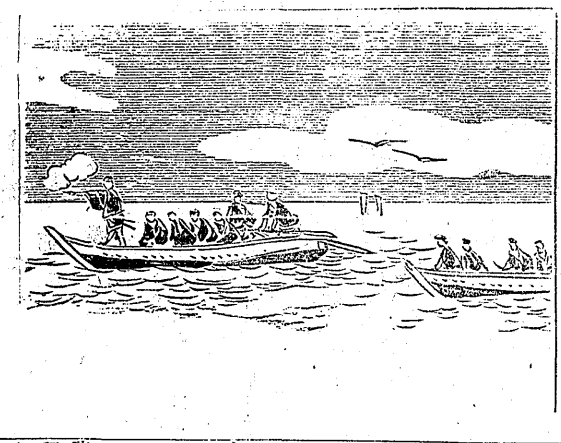
移る雲 (童話詩)

小田 俊夫

移る雲
情のむかうに
静かにうごいて
雲うつる
空は青ぞら
陽は西みなみ
こころ鳴ります
早い風

拈華微笑
から。有つ時拂
四十にして慈は
のふねに乗せて引つ張つて
來たから、皆殺しにして小
さばら。深川キミ發表

拈華微笑
財源が確立して
採んで出船しやうと掛つた此方は下田奉行の最上與會
が、鳴右衛門は承知しない平、寺尾彌左衛門と打合せ



拈華微笑
財源が確立して
採んで出船しやうと掛つた此方は下田奉行の最上與會

元禄名妓傳
小邑井、小巴演
(宮野恒彦書)

下放送す
△九二〇 料理献立(鯛の
さばら) 深川キミ發表
△九三〇 A 家庭講座
談するではないかな、危
し、減多に側へ寄付く
(流行に就ての私見) 藤
居拾三

下放送す
△九二〇 料理献立(鯛の
さばら) 深川キミ發表
△九三〇 A 家庭講座
談するではないかな、危
し、減多に側へ寄付く
(流行に就ての私見) 藤
居拾三

下放送す
△九二〇 料理献立(鯛の
さばら) 深川キミ發表
△九三〇 A 家庭講座
談するではないかな、危
し、減多に側へ寄付く
(流行に就ての私見) 藤
居拾三

下放送す
△九二〇 料理献立(鯛の
さばら) 深川キミ發表
△九三〇 A 家庭講座
談するではないかな、危
し、減多に側へ寄付く
(流行に就ての私見) 藤
居拾三

勿驚破天荒廉賣
記念新坑着炭
正味拾貫八匁一俵、金貳拾五錢

永野氷室
東京コークス、石炭業
平郵便局通、電話二九九番

度量衡計量器
吸入用酸素
吸入器
関内薬局

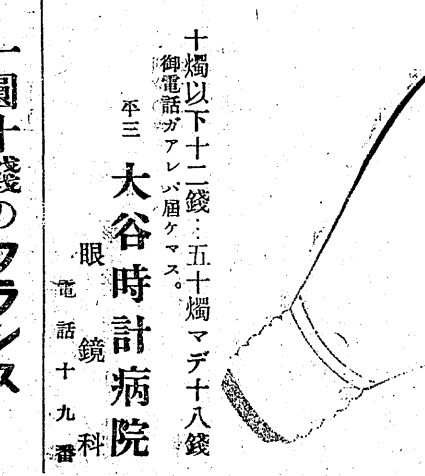
診察時間繰上
多田井質店
電話五九一

小名濱商事株式會社
平出張所
電話五〇三番

釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番

開店披露
カフエー 壽
電話呼出二八六番

大谷時計病院
電話十九番



一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
生葡萄酒

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

西村屋藥店
電話三番

